

おひなさま

及川ふみ

ふきの葉が霜柱の間から二三つ頭をもち上げるのを見るといつも私は春も近い中です。といつてくれる様な氣持がしてお雛様の事を考へます。

今年のおひな様は口繪の寫眞の様につくつて見ました

内裏様

圖の様に千代紙や伊豫紙に謄寫しておいて丁寧にさらせます。親王様の方は小豆茶の地に櫻の模様のあるもので襟まわりは黄色です。内裏様は赤地に小櫻模様で襟まわりは黄色です。

三官女

第二圖の様に桃色の伊豫紙に謄寫してきります、襟のまわりと袴は赤です。

五人囃

第二圖の形を黄色でつくります襟のまわりと袴は綠色です。

櫻橋

直徑四センチの圓形の一部をかき櫻の方は桃色の地に赤の小丸を六つはり橋の方は緑の地に黄色の小丸を六つはります二本の木は茶色で柵は黒い紙です。

顔の部分はいづれも畫用紙で着物の後の部よりはりつける。

台紙はボール紙の出来るだけ厚きものを直徑三十センチに圓くきりこれにじみな緑の伊豫紙をはる。

